

磨かずば 玉も鏡も 何かせむ

令和6年度前期が本日をもって終了します。先日の表彰朝会では、多くの生徒が部活動の大会や各種コンクールで素晴らしい成果を挙げ、表彰をされました。努力の賜です。よく頑張りました。それでも、表彰を受けた生徒だけが頑張ったわけではありません。

富士見中学校には創立以来受け継がれている精神があります。「文武両道」です。前期始業式や入学式の式辞で「文武両道の『文』は授業をはじめとする『学習』、『武』は部活動・クラブ活動・習い事などをはじめとする『自主的な体験活動』である」とお話をしました。皆さんは、授業や学校行事など、日頃の学校生活にしっかりと取り組みました。そうであれば、ここにいる全員が「文武両道」なのだと思います。皆さん一人一人が「文」と「武」の2つの視点から前期をしっかりと振り返り、自らの成長を確認してみてください。



さて前期終業式にあたり、この記念碑に刻まれている言葉についてお話をしたいと考えています。校庭の入り口（朝礼台の横）に記念碑がありますね。この記念碑には1首の歌が刻まれているのです。

磨かずば 玉も鏡も 何かせむ
学びの道も かくこそありけれ

この和歌だけだと意味が分からないですね。分かりやすい現代語で、言葉もずいぶんと補いながら言い換えてみます。「玉も鏡も磨いてはじめて、その価値が出てきます。どんなに才能があっても、それを磨かなければ、どうにもなりません。学校もこのようにありたいものです。勉学に励んで、立派な人になってください。」

これは、明治天皇の皇后、後の昭憲（しょうけん）皇太后が、東京女子師範学校、現在のお茶の水女子大学の開校のときにお詠みになった歌だということです。

そして、この記念碑は、昭和41年度 第18回卒業生の卒業記念です。裏書きには当時の3年間の活躍の跡が残されています。一例を挙げれば、部活動の大会、学校総合体育大会の前身・県民大会で、多くの部が県大会優勝を果たし、男子が総合優勝を果たしたり、学校の新聞コンクールで県の最優秀賞を獲得したりした記録です。まさに文武両道です。

今から60年も前の先輩方が、富士見中学校の後輩に向けて「しっかり自分自身を磨いて欲しい」というメッセージを込めて建てた記念碑だということがわかります。

皆さんの活躍は、これまでの多くの先輩方のたゆまぬ努力の延長線上にあることを忘れないで下さい。これからも、しっかりと自分自身を磨く努力を続けていきましょう。

明日からは3日間の秋休みです。気持ちを新たに後期のスタートを迎えましょう。令和6年度前期終業式の式辞は以上です。

熊谷市立富士見中学校長 田沼良宣